

第72回「社会を明るくする運動」 調布市意見発表会 意見発表文

学校名	調布市立第三中学校
代表者氏名	松 昌考 (まつ まさたか)
学年	2年
題名	社会を明るくするために
本文	
<p>最近のニュースは、気分が沈むようなものばかりだ。ウイルス、戦争など様々な話題があるが、私が特に注目したのは「ジョーカー事件」と言われているものである。世間に大きなショックを与えた事件だったため、多くの人々が覚えているだろう。私も、初めてこの事件をニュースで見たときは「日本でこんな凶悪犯罪が起こるなんて。」と驚いた。しかもそれが、連鎖的に起こっているということを知り、問題意識と興味を持ったので調べることにした。</p> <p>まずは、事件の概要について調べた。ジョーカー事件は正式には京王線刺傷事件をいうらしい。2021年10月31日、京王線の特急列車車内で乗客の男性が他の乗客を刃物で切りつけた上、車内に火を放ったという事件だ。男は警察の取り調べに対し、「小田急線刺傷事件を参考にした。」と答えたらしく、連鎖的に起こっていることが分かる。ではなぜ、こんな事件を起こしてしまったのだろうか。次はそれを調べる。</p> <p>なぜジョーカー事件のような事件を起こしてしまうのか、について述べら</p>	

れた記事をインターネットで検索した。いくつかのページを見てみて、関心を持った意見は3つある。1つ目は、「凶悪犯罪を犯した人は人間関係や社会的地位において失うものがなかった」という意見だ。罪を犯しても捕まることのデメリットが通常より少ない、と判断したのだろう。2つ目は、「凶悪犯は『正当防衛』として自分の犯行を心の中で正当化している」という意見だ。自分を虐げてきた社会に対して自己防衛する、という考えらしい。3つ目の意見は「凶悪犯罪を犯した人は世間の注目を集めたかった」という意見だ。社会に見向きされなくなったから、自己顕示欲を満たすためにやった、ということだろう。3つの意見を知って、凶悪犯罪が起こる原因が分かった。では、どうすればそれを止めることができるだろうか。自分たちには何ができるだろうか。それを考えるには、凶悪犯罪を犯した動機の共通点を考える必要があると思う。

凶悪犯罪を犯した動機の共通点には、「社会的なつながりが少なく孤立していること」や、「社会を憎んでいること」などが挙げられる。これらの条件を満たす人が少なくなれば、凶悪犯罪の件数も少なくなるはずだ。「社会を憎んでいること」はその人の感じ方次第なので私たちにできることは少ないが、「社会的なつながりが少なく孤立していること」なら私たちの行動次第で変えていけると思う。具体的には、困っていそうな人に声をかけたり、人に優しく接したりすれば、京王線刺傷事件のような事件は減ると私は考えた。

ここで、興味深い資料を紹介したい。イギリスのチャリティー機関が発表している「世界人助け指数」で、日本は126か国中107位だったそうだ。特に、「他人を助けたか」という観点の順位は低かったそうだ。この資料からも、日本は他人に優しい人が少なく、やはり、見ず知らずの人を助けられる人を増やすことが今の日本に必要なということが読み取れた。実際、私も日常生活でそれをよく感じる。電車の中、道路などの周りにはいる人全てが他人となる環境では、気象が荒い人や舌打ちをする人などをよく見かける。また、明らかに悪いわけではないが、助けを求めている人を見かけても、手を差し伸べず見て見ぬふりをする人も多いことだろう。そういう人たちを変えていくことが理想だが、他人を変えるというのはとても難しいことだ。だからまずは自分を、「見て見ぬふりをしない人」に変えることが大切だと思う。そして、他人でも困っている人がいたら助けることが、犯罪を抑止し、社会を明るくすることにつながると思う。

おそらく日本人は、困っている人を見つけ、何をすべきかが分かっても、自分の行動に自信を持ってない人が多いのだと思う。「おせっかいだったらどうしよう」や「偽善者と思われたら嫌だな」などと考えると行動に移すのは難しくなってくる。それでも、「自分は善意を持って行動しているんだ」という気持ちで、行動に移していきたい。日本人の苦手なところだからこそ、改善していくべきだし、改善出来たら日本社会がより明るくなるはずだ。

ジョーカー事件を調べていくうちに私は、今の日本には「人助けする心」が大事だと考えるようになった。そこで、それを今の自分に活かしていこう、と思った。自分はまだ中学生だ。でも、もうあと数年で自立することになるだろう。自立後に、他人を気に掛けられるようになるためにも、中学生のうちから「人助けをする心」を持って行動に移す習慣をつけていきたい。そのために私は特に、「周りをよく見ること」を意識しようと思う。ピンチに陥っている人は、周りに助けを求められないことが多いので、これからは、周りをよく見て、困っていそうな人を見つけたら、声をかけてあげようと思う。そういう雰囲気、みんなにも広がっていったらなお良い。行動を起こすには勇気がいるが、これからは、みんなや社会のためだと思って、行動できるように意識して学校生活を送っていききたいと思う。